

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 台風第9号については最新の台風予報を参照。
- 13日は、日本の南の高気圧が西日本に張り出し、前線が北日本を通過する。
- 14日から15日にかけては、低気圧が中国東北区を北東に進み、日本の東の高気圧の西日本付近への張り出しが徐々に弱まる。
- 16日から17日にかけては、低気圧はアムール川下流付近に進み、前線が北日本を通過する。

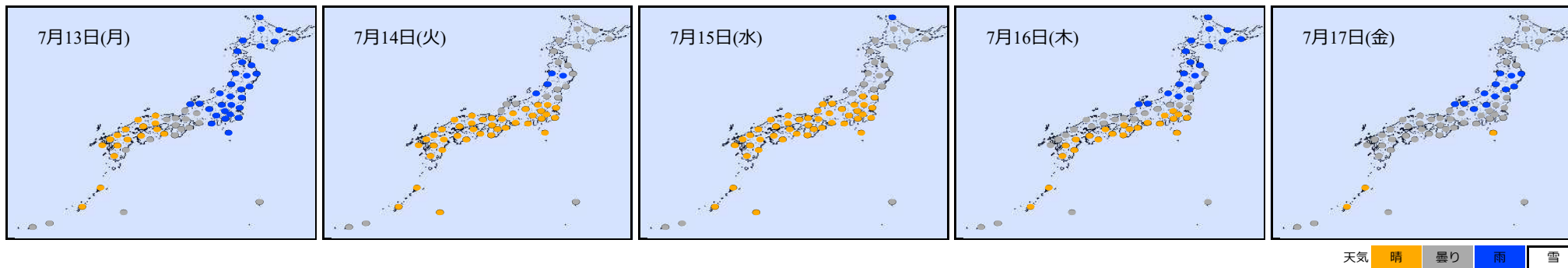
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 13日にかけて、北日本と東日本日本海側では、前線や暖かく湿った空気の影響で大雨となり、湿った空気の流れ込みの程度等によっては警報級の大雨となるおそれがある。
- 西日本と沖縄・奄美では気温が平年よりかなり高くなり、最高気温が35度以上となる所がある。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

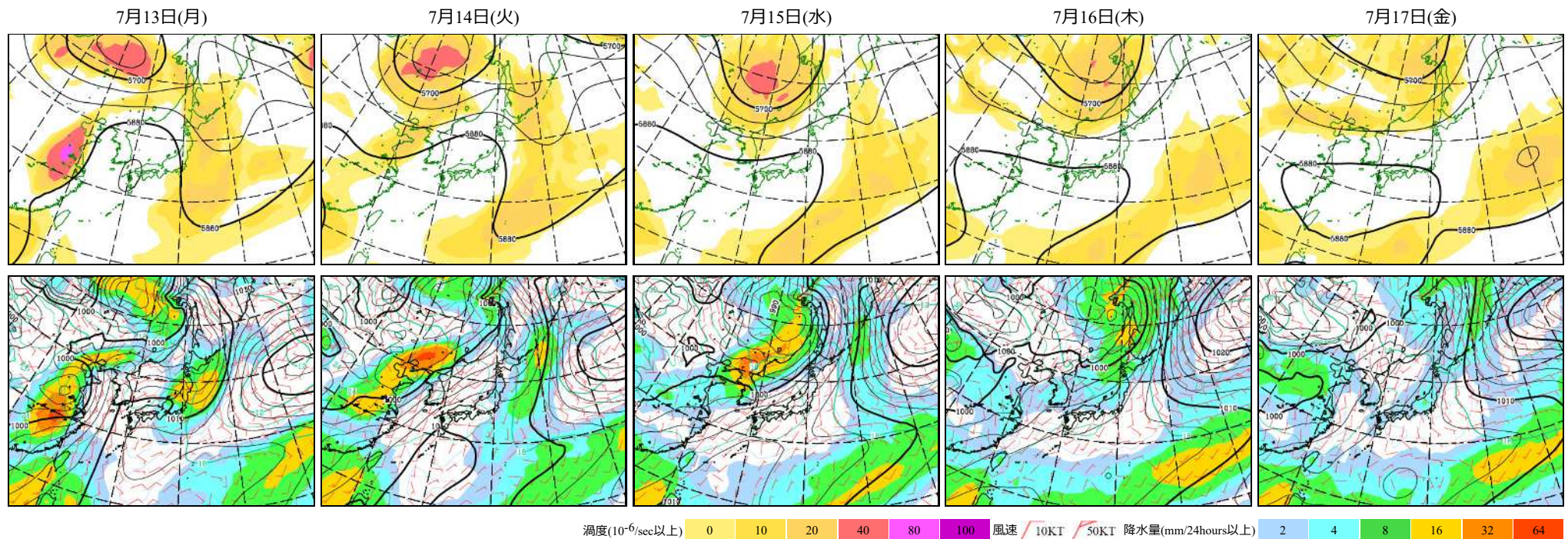
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

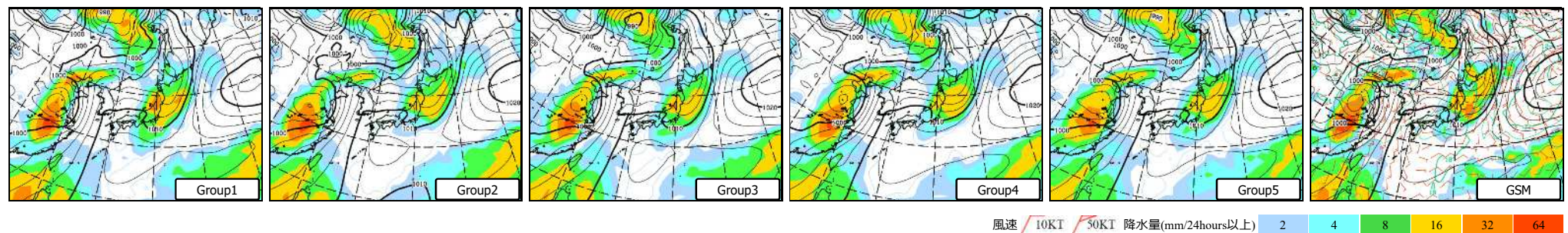


- 北日本は、曇りや雨の降る日が多い。
- 東日本は、日本海側は曇りや雨の降る所が多い。太平洋側は晴れる日が多いが、13日と17日は雨の降る所がある。
- 西日本と沖縄・奄美は、晴れまたは曇りの日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆7月13日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、大きな初期値変わりはない。
- トラフの予想が初期値変わりしたモデルもあるが、モデル間の差は小さくなった。
- NCEPは、13日は上空のトラフが日本の南までのび、伊豆諸島付近に低気圧を予想するが、ENSには同様の予想をするメンバーはない。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。